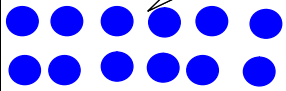
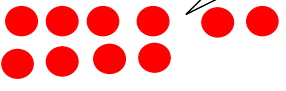


課題解決アイデアシート

3 提案者
山本貴・曾田・益田・山根

テーマ	市民の意識改革	
アイデアカード	目的 (解決できる課題)	行政への依存度が高い!! なんとかしてくれると思う受身の市民!!
	アイデア名称 (事業名)	生活ニーズ改善事業
	内 容	ひとり、一人が参加できる内容講座 体験・体感から味わう意識づくり
課題の原因	・個人の生活の違いから自分本位の時間となる ・行政への意識が低いのですべてやってくれると依存 ・地域の活動をしないため、参加もなく、すべて受身	
主体の役割	住民	ホームステイ法、地産地消
	行政	助成金支援（イベント・講座・PR）
	自治会	他地区との交流（自治会お隣の!!） 調整役（コーディネート） 自治会の宣伝（マップづくり）
評 価	<実現可能性> 青色 	<実行の必要性> 赤色 

山口市内の
山の人⇒海へ
海の人⇒山へ

市民の意識改革
につながるもの
寄付基金も検討してどうか!!
(企業もあり)
(中間団体で配分)
申請することにより、
団体の公共性が育つ
地域通貨、ファンドなど
色々な仕組みを検討

<発表3班>（第4回会議録より抜粋）



テーマは「市民の意識改革」。今は行政への依存度が高く、なんとかしてくれると思う受身の市民が多い。まずは個人から変えていこうと。一人ひとりの生活ニーズを改善できる事業を行ってはどうかということになった。

内容的には、一人ひとりが参加できる講座を持ち、体験・体感から味わう意識をつくる。今は個人の生活の違いから、自分本位の時間ばかりを持って他のことに目を向けていないのではないかということ。

行政への意識が低く、全てやってくれだろうと依存しているのではないかと。「犬がうるさいんだよ、行政どうかして」と全て行政に任せてしまっている。

地域の活動に参加しないので、全てが受身。公民館や市役所で講座をやっている、講座に対しての興味が全くない。個人的に自分が生活できればよいということ。

住民の役割にあるホームステイ法とは山口市内の山の方の地域に住んでいる人は海の方へホームステイして、海の方に住んでいる人は山の方へホームステイする。

自治会は他地区との交流。お隣の自治会と自治会同士の宣伝をし、地域の特色を生かしたマップを作る。

課題を解決するための各主体の役割はコチラ

質疑応答



<Q>助成金はイベント、講座、何でも出すのか。

<A>期限付きや、内容が市民の意識改革につながるかというところが目的に合っているか、目的意識が間違っていないかを審査して出す。申請することで、やる側の意識向上にもなる。市民が書類に自分の意思を落とすという大切な行為だと思う。

<Q>市民の意識改革ということだが、市民の主体性を出していくことが大事だと思う。寄付基金も考えていくべき。中間的な支援団体を作り、寄付基金から市民の主体性づくりも支援していく。こういった体制作りはどうかと考えた。やはり自分たちのことは自分たちでやるという意識が大事だと思う。

<A>寄付基金という話が出たが、それにすればよかった。まず企業を誘致し、企業が栄えれば税金が増えてまちが潤う。寄付基金に企業が出すことに結びつくと思う。もちろん個人の寄付もあるが。お役所だけのまちだったら破綻するのも秒読み段階なので、企業がまちと一緒に潤っていくことができないかと考えている。

<A>補足だが、助成金は、例えば地域通貨等を考えるのもひとつのアイデア。市民の協働づくりファンドをみんなに募ってやっていく。いろんなやり方があると思うが、ある程度の仕組みを行政が考えて、架け橋になってもらえればよいと思う。